

## 株式の状況 (2017年9月30日現在)

発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式の総数	6,080,920株
株主数	2,920名

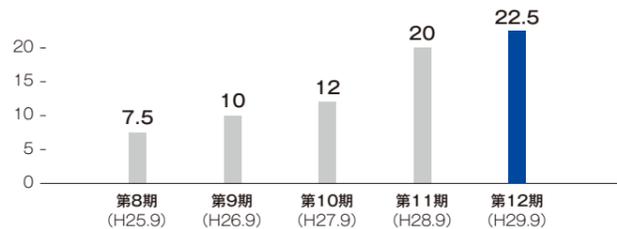
## 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
ACKグループ社員持株会	646,495	10.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	278,800	4.5
オリエンタル白石株式会社	250,000	4.1
パシフィックコンサルタンツグループ株式会社	236,400	3.8
株式会社三井住友銀行	223,600	3.6
平野 利一	160,000	2.6
日本生命保険相互会社	152,000	2.4
清野 茂次	141,000	2.3
第一生命保険株式会社	140,000	2.3
三井生命保険株式会社	140,000	2.3
明治安田生命保険相互会社	140,000	2.3

※所有株式数の割合は小数点第2位以下を切り捨てて記載しております。  
 ※上記のほか、当社所有の自己株式422千株(6.9%)があります。

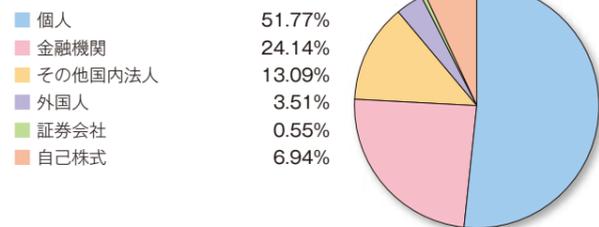
## 配当金の推移

(単位:円)

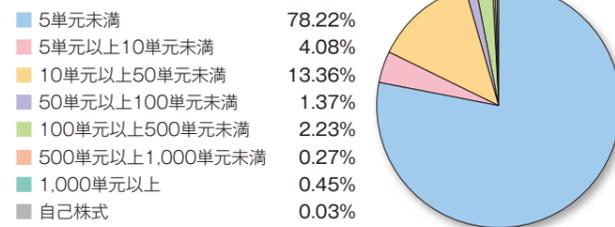


## 所有者別株式数比率と所有単元株数別株主数比率

### 所有者別株式数比率(%)



### 所有単元株数別株主数比率(%)



私たちは、ACK(アック)グループです。



土木・建設分野を中心に、総合コンサルタントとして事業を展開。「世界の人々の豊かなくらしと夢の創造 ~サービス領域無限大へのチャレンジ~」をミッションに、インフラ・環境マネジメントなど幅広い分野で貢献しています。

〒151-0071  
 東京都渋谷区本町三丁目12番1号  
 住友不動産西新宿ビル6号館

[証券コード: 2498]



## 株主メモ

事業年度の最終日	9月30日
定時株主総会	12月中
基準日	9月30日(中間配当を行う場合3月31日) <small>その他必要がある時は、取締役会の決議をもって予め公告いたします。</small>
上場証券取引所	JASDAQ
一単元の株式数	100株
銘柄略称	ACKG
証券コード	2498
株主名簿管理人 (兼特別口座管理機関)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号(〒100-8233) 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120(782)031<フリーダイヤル> <small>取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。</small>
公告掲載	電子公告 <small>ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。</small>

### 住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について

- ・株主様の口座がある証券会社にお申し出ください。
- ・証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主様は、特別口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

### 未払配当金の支払いについて

- ・株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

### 「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。  
 ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。

## フィリピン共和国 南北通勤鉄道事業

開発途上国では都市圏の人口急増や経済成長に伴い、交通混雑が深刻化しており、鉄道のニーズが高まっています。フィリピンのマニラ首都圏を南北に結ぶ、総工費2,100億円、延長37kmの高架鉄道の詳細設計を実施。通勤の利便性の向上、交通混雑の緩和、ひいては大気汚染の低減を図ります。



2016.10.01 - 2017.09.30 | Business Report | 第12期のご報告

株式会社  
**第12期 ACKグループ**  
 [証券コード: 2498]

- 1... トップメッセージ
- 3... 総合的・複合的なサービスを提供『海外事業』を強力に推進  
 海外プロジェクト・レポート/座談会
- 13... コラム「復興・国土強靱化にむけて」
- 14... ACKグループ INFORMATION



# 6期連続の増収・増益

## 中期経営計画「ACKG2013」および「3つの強化」の推進により順調に成長

株式会社ACKグループ 代表取締役社長  
野崎 秀則

1982年、オリエンタルコンサルタンツ入社。2000年に中央設計技術研究所社長、その後オリエンタルコンサルタンツ取締役執行役員などを経て、2009年社長に就任。同年より、ACKグループ連携推進担当、代表取締役副社長などを歴任し、2013年12月代表取締役社長に就任。現在に至る。



Hidenori Nozaki

### 【株主の皆さまへ】

株主の皆さまには、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。この度の事業報告書「第12期Business Report」をお届けするにあたり、皆さまの日頃のご支援とご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

私どもは、2013年9月に策定した中期経営計画『ACKG2013』に加え、より確実な目標達成に向けた強化方針を2014年9月に打ち出し、経営を進めております。「個の強化」、「連携の強化」、「3軸市場の競争力強化」の3つの強化を実践した結果、おかげさまで、6期連続で増収・増益（営業利益）、売上高・利益が過去最高を達成することができました。

これもひとえに皆さまのご支援の賜物と感謝しております。

株主の皆さまには今後ともより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 6期連続となる増収・増益を達成

国内公共市場におきましては、ひき続き防災・減災関連のハード・ソフト対策業務、道路・河川・港湾等の維持管理業務の受注が堅調に推移するとともに、地方創生関連の業務の受注も増加いたしました。

国内民間市場におきましては、土壌汚染に係る調査・対策業務の受注が堅調に推移いたしました。首都圏における再開発業務は前連結会計年度に比べて減少いたしました。このような状況のなか、当連結会計年度における国内市場の受注高は、337億37百万円（前連結会計年度比7.3%増）となりました。

海外市場におきましては、需要の高い開発途上国でのインフラ整備を中心とした事業が堅調に推移するなか、鉄道・道路分野において大型案件の受注を獲得し、当連結会計年度における海外市場の受注高は、257億45百万円（前連結会計年度比53.4%増）となりました。

これらの結果、当連結会計年度の業績につきましては、受注高は594億82百万円（前連結会計年度比23.4%増）となり、売上高は470億74百万円（同9.8%増）、営業利益は14億34百万円（同11.6%増）、経常利益は13億85百万円（同29.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は8億52百万円（同35.6%増）となりました。

### 3つの強化により事業拡大を促進

「3つの強化」である「個の強化」、「連携の強化」、「3軸市場の競争力強化」の推進により、当期には、当社のグループ会社において、次のような成果を挙げることができました。

「インフラ保全・運営管理」では、(株)オリエンタルコンサルタンツが、焼津市様、国立大学法人名古屋工業大学様と共同で、2014年度から統合型公共施設等データベースの開発に着手しておりましたが、この度、建物系施設を対象とした実運用に向けた「統合型データベース」が完成し、2017年4月より本格稼働を開始いたしました。

「防災」では、(株)エイテックが、熊本地震など災害対策活動支援3件での功績が評価され、国土交通省国土地理院様より、災害対策活動への協力もしくは支援において、顕著な功績があった個人または団体に授与される感謝状を授与

されました。

「地域活性化」では、(株)リサーチアンドソリューションが、新たな自社開発のクラウドサービスとして、情報配信アプリサービス「ぷらり」を正式リリースいたしました。この「ぷらり」は、観光地や商業施設等のイベントPRや集客のため、情報配信するスマートフォンアプリを短期間で開発できるプラットフォームサービスです。

「事業経営」では、(株)オリエンタルコンサルタンツが、神奈川県開成町の地域活性化の取り組みの一環として、慶応元年に創業した酒蔵である(株)瀬戸酒造店の株式の100%を取得して子会社化し、自家醸造再開に向けた醸造所の建替工事に着手いたしました。

また、(株)オリエンタルコンサルタンツグローバルでは、タイ王国での現地法人の設立を決定いたしました。国際的なインフラ需要に対応するため、設計業務の拠点として、タイ王国の優秀な技術者を確保し、同国以外の業務も含め、廉価で高品質なインフラ設計を世界へ提供して参ります。

本ビジネスレポートでは、「海外」をテーマに、海外での当社グループの様々な取り組みについて、ご紹介いたします。

### 「世界の人々の豊かなくらしと夢の創造」の実現に向けて

当社グループは、今後も中期経営計画「ACKG2013」および「3つの強化」により、技術・サービスの高度化を推進するとともに、事業領域の拡大を図り、当社のミッション（使命）である「世界の人々の豊かなくらしと夢の創造」の実現に向け、より一層の社会貢献を果たして参ります。

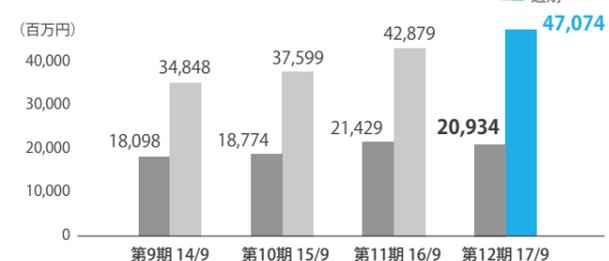
ACKグループの今後の成長にご期待下さい。

### 第12期 財務ハイライト

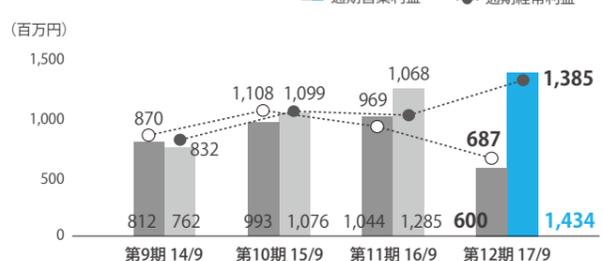
財務ハイライトの詳細は[ACKグループホームページ - IR情報 - IRライブラリ]に掲載しておりますので、そちらをご覧ください。

(<http://www.ack-g.com/ir/library/index.html>)

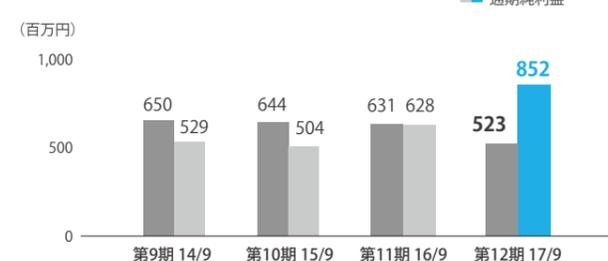
#### 売上高



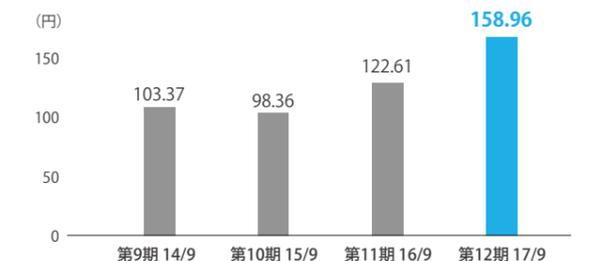
#### 営業利益・経常利益



#### 親会社株主に帰属する当期純利益



#### 1株当たり当期純利益



ACKグループの連携によるシナジーで、世界の人々の暮らしを支える社会経済基盤の整備に貢献

# 『海外事業』を強力に推進

総合的・複合的なサービスを提供

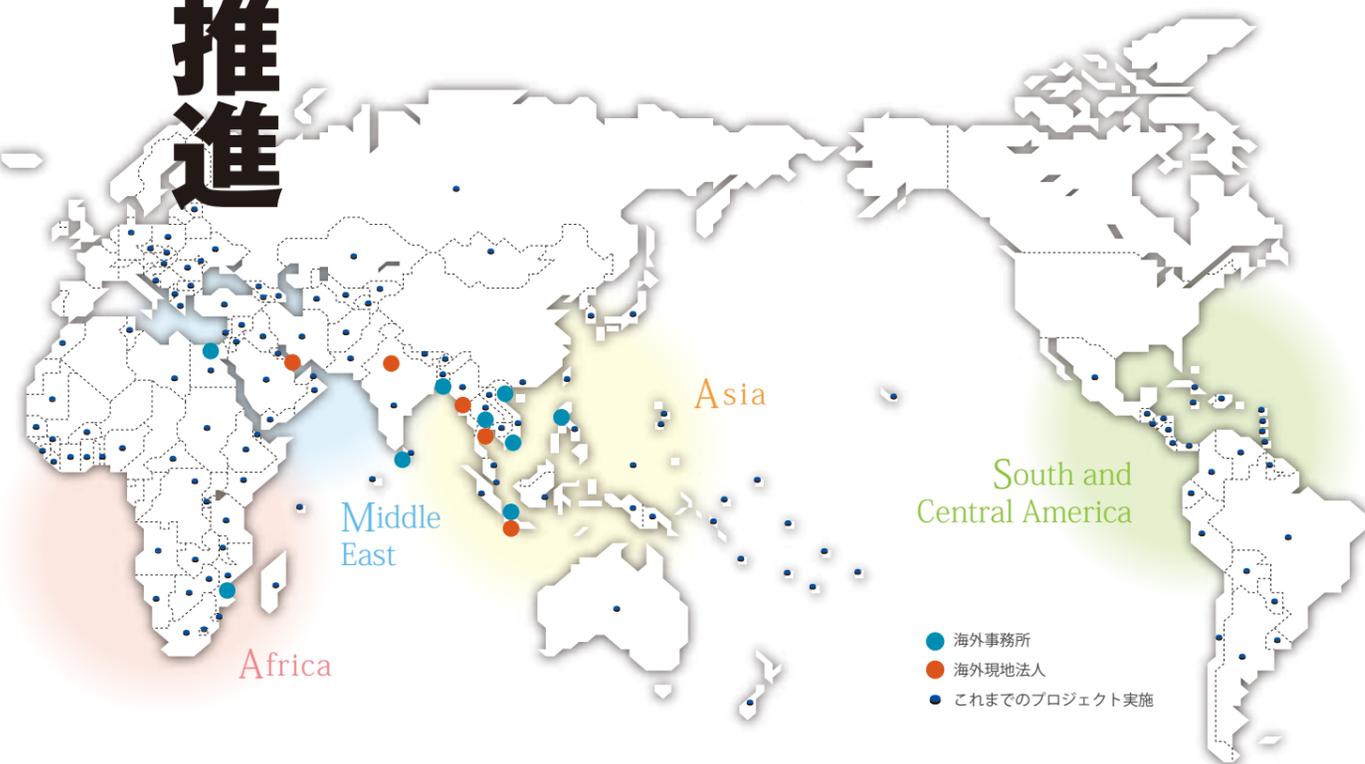
海外では、アジアやアフリカなど開発途上国におけるインフラ整備の需要が高まっており、本邦企業の優れた技術・ノウハウの活用や資金調達力が求められています。

このような状況下、ACKグループでは、海外市場のリーディングカンパニーである(株)オリエンタルコンサルタンツグローバルを中心に、豊富な海外実績・経験やネットワークを活かし、社会経済基盤の整備に向けた初期調査から計画、設計、施工監理、維持管理、プロジェクトマネジメント、事業運営等、総合的なワンストップサービスを提供しております。

加えて、「海外新規開拓」をACKグループの重点化事業として位置づけ、海外市場の拡大や、組織体制の強化を推進し、さらに、要素技術においてさまざまな得意分野を持つ当社グループ会社と、(株)オリエンタルコンサルタンツグローバルとの連携によるシナジーで、海外事業の拡大に力を注いでおります。

さらなる市場の拡大に向け、海外拠点、現地法人等の設立や体制の整備、ACKグループ全体での人材育成や連携強化により、総合的・複合的かつ多様なサービスを展開いたします。また、従来のODA案件やコンサルタント業務のみならず、新たなグローバルビジネスにも挑戦します。

今後も、ACKグループでは、海外事業を強力に推進し、世界の人々の暮らしを支える社会経済基盤の整備に貢献して参ります。



CASE 01

## 新幹線のインフラ海外輸出

### インド

[ Republic of India ]

定時性・安全性を確保する高速鉄道を計画。7区間のうち第1区間のプロジェクトが始動！

最大の商業都市ムンバイと、工業都市アーメダバードを結ぶ全長約505kmの高速鉄道敷設のため、現地調査、計画、設計などが実施されています。区間の9割が高架橋、さらに約21kmの海底トンネル区間もあり、当社グループ4社の技術力を結集し、連携して計画を進めています。プロジェクトチームは、(株)オリエンタルコンサルタンツグローバルを含む国内3社JVで、チームには鉄道だけでなく土木、機械、電気、建築など幅広い分野のスペシャリストが在籍し、国内で培ってきた知見と技術で、新幹線のインフラ輸出に寄与。高速鉄道は合計7区間が計画されており、その第一弾として注目を集めています。



現地法人などローカル技術者とのチームワークが欠かせない。



新幹線は日本のインフラ輸出の目玉。今後の展開が大いに期待されている。



### インド

南アジア唯一の面積と世界第2位の人口を持つ大国。多くは農業で生計を立てる一方、製造業・IT・サービスを中心に経済は急速に成長しており、今後の発展が期待されている。

CASE 02

## 食と栄養に係る情報収集と調査

### アフリカ・アジア13カ国

[ Africa / Asia ]

「栄養改善」を目的としたJICA初の農業・農村開発への取り組みを支援。

開発途上国を中心に急性・慢性の栄養不良問題を抱えている5歳未満の子どもが世界に1億4,600万人(出典: unicef\*)おり、その中には飢餓状態にある家族もいます。日本政府は2016年8月に開催された「第6回 アフリカ開発会議」において、IFNA(食と栄養のアフリカ・イニシアティブ)の立ち上げを宣言し、栄養に関する課題を持つ国々への支援を表明しました。これを受け、「食と栄養に係る基礎情報収集・確認調査」では、IFNA対象国となるアフリカ10カ国と栄養状態の悪いアジア3カ国に対し、各国の栄養に関連した現状、取り組みを調査。農業・食糧安全保障、保健、教育、水衛生など幅広い観点から提言しました。



他の支援機関の栄養改善プロジェクトに参加した女性たち。家庭菜園で野菜を栽培するほか、シアの実などを販売してグループ内で貯蓄し栄養改善・生活改善に活用している。



村に作られたオレンジサツマイモ畑(ガーナ)。ガーナでは、ビタミンAの豊富なオレンジサツマイモなどの栄養価の高い作物の栽培方法や作物の調理方法を含めた栄養教育を普及活動に取り入れている。



開発途上国では、慢性的な栄養不良に伴い、5歳未満の多くの子どもが成長阻害にさらされている。

\*UNICEF <https://www.unicef.or.jp/special/eiyo/intro.html>

CASE 03

貨物取扱量増加に伴う港開発事業

インドネシア共和国

[ Republic of Indonesia ]

首都圏港湾の貨物取扱容量の不足を補うため  
渋滞道路を通らずアクセスできる新港を開発。

急速な経済発展を遂げるインドネシアでは、既存港湾の拡張が進むものの、ジャカルタ首都圏の貨物量増加に伴い、2030年には再び港湾の容量不足が予想されています。そこで新たに構想されたのが、パティンバンでの新港建設計画で、ここには日本の地盤改良や護岸整備技術が適用される予定です。ジョコ大統領は「海洋国家構想」を掲げ、港湾整備によるインフラ拡充を重視。パティンバン新港は国内の貿易拠点として機能する「主要港」と位置づけられています。首都圏の物流強化を図り、同国の投資環境の改善とさらなる経済成長に寄与します。



陸側から見たパティンバン港のイメージ。



成長著しいインドネシアでは、インフラの拡充や整備が期待されている。



インドネシア

東西に長く、赤道をまたぎ1万以上の大小の島々で構成される。人口は2億5千万人以上で世界第4位。ジャワ島にある首都ジャカルタは東南アジア屈指の都市で、ASEANの盟主といわれる。

CASE 04

渋滞緩和に向けた鉄道整備事業

フィリピン共和国

[ Republic of the Philippines ]

交通ネットワーク強化と渋滞緩和に向けた  
南北通勤鉄道計画の詳細設計調査を実施。

人口1,300万人を擁するフィリピン経済の中心、マニラ首都圏。近年の急速な発展と経済活動の一極集中により、交通混雑が悪化の一途をたどっています。また、近郊地域への生活圏の拡大と、大量輸送機関の整備の遅れにより、バスや自動車での不便な通勤を余儀なくされています。マニラ首都圏の交通問題の解決の切り札として期待されているのが、マニラを中心に首都圏を南北に結ぶ、総延長144kmの「南北通勤鉄道計画」です。今年8月、マニラの北方マロスからマニラ市ツツバンまでの37kmの詳細設計が完了。通勤圏の交通ネットワークの拡充により、交通渋滞や大気汚染の緩和を図ります。



マリラオ駅の駅舎イメージ。未来的なデザインが印象的だ。



本線は全線が高架で計画されている。



フィリピン

100近くの島で構成される東南アジアの島国。首都はマニラ、最大都市はケソン。人口は1億人を超え、多くの国民は農業に従事する。経済成長は著しく、インフラ開発が望まれている。

CASE 05

経済発展を促す高速道路の建設

ベトナム社会主義共和国

[ Socialist Republic of Viet Nam ]

ベトナム中部地域初となる高速道路を建設。  
南北を結ぶ“大動脈”として大きな期待。

ベトナムの中部地域最大都市、ダナン、クアンナム、クアンガイを結ぶ全長139kmの高速道路の建設が進められています。この地域には、国際港湾、空港、工業団地、世界遺産など、物流拠点や交通の要所、観光地などが点在しているため、これらをつなぐ高速道路の完成に大きな期待が寄せられています。また、洪水など災害発生時に、高速道路の海側に並行して位置する国道1号線の代替道路として有用な交通インフラとして活用される予定です。2017年8月には北側、ダナン、タムキー間の65kmがテクニカルオープンを迎え、記念式典が行われました。



2017年8月に行われた記念式典でのテープカット。



北側65kmの道路が開通し、ドライバーが快適に走行する。



ベトナム

国土は南北に長く、中国、ラオス、カンボジアと国境を接する。人口約1億人、首都ハノイ。多くは一次産業に従事するが観光業の伸びが顕著。日系企業の進出も多く、工業化・近代化が進む。

CASE 06

画期的な工法により新空港を整備

モンゴル国

[ Mongolia ]

過酷な気象条件を乗り越え新空港を建設中。

内陸国にとって、空港は諸外国の玄関口として重要なインフラですが、首都ウランバートルの既存空港は安全面で課題が多く、就航率が低い状態です。今後の空港利用者の急増に向け、新ウランバートル国際空港が建設中です。内陸という地理的特性から資材調達等に課題があり、度重なる設計変更や業者入札を経て工事着工にこぎつけました。また、夏は40℃、冬は-40℃の寒暖差がある厳しい気象条件であるとともに、コンクリート舗装などの屋外工事が施工可能な気象条件(気温5℃以上)が確保できる期間は年間70日間を下回ります。限られた工期のなかで効率的に建設を進めるため、コンクリート舗装工事には画期的な大型自動コンクリート打設工法を活用しました。



厳しい気候条件を想定した滑走路のコンクリート舗装。



旅客ターミナルビルの全景。



モンゴル

中国・ロシアと隣接する内陸国で、首都はウランバートル。相撲の交流など親日関係は比較的良好。天然資源が豊富で、遊牧による畜産も盛んだが、砂漠化の進行など課題も多い。

Hironori Kawai



1 ㈱オリエンタルコンサルタンツグローバル  
軌道交通事業部 軌道交通技術第二部

河合 弘則

2011年、㈱オリエンタルコンサルタンツ入社後、2年間海外の道路・鉄道案件に従事。外部コンサル企業へ出向し、国内の整備新幹線など鉄道構造物設計業務を担当する。2017年より現職となる。

Shinji Hagi



2 ㈱アサノ大成基礎エンジニアリング  
事業推進本部 国際推進室 係長

萩 真次

入社後、本社および名古屋支店で、土質・地下水などの調査・解析や軟弱地盤対策検討業務などに従事する。2015年には約1年間、ベトナムのハノイで道路の施工監理に携わるなど海外経験を持つ。

Masaki Sumi



5 ㈱エイテック  
東日本支社 構造保全部

角 祐樹

2004年に入社後、主に道路構造物の設計業務を担当する。2012年から1年弱、大手ゼネコンに出向し、橋梁などの設計業務に従事。その後2013年より復職し、現在にいたる。

Hiroyuki Imamura



4 ㈱オリエンタルコンサルタンツ  
本社 海外事業部 副事業部長 兼 事業本部 主幹

今村 博行

入社後は中部支店・関西支店、NEXCO施工管理において、山岳トンネルの関連業務に従事。その後は本社・関東支店、㈱ACKグループ統括本部にてマネジメント業務を担当し、現職となる。

Rumi Sawada



6 ㈱オリエンタルコンサルタンツグローバル  
プランニング事業部 農業・水資源部

澤田 留美

農業・農村開発、社会経済状況や住民ニーズの調査に基づく計画の策定、生計向上を目的とした生産・販売活動の普及支援などを担当。日本の技術を活用した、人材育成・研修にも携わる。

Masami Shirai



6 ㈱中央設計技術研究所  
本社 下水道部 課長

白井 正己

入社から約15年間、下水道の計画や設計を中心とした業務を担当する。その後、2015年には㈱オリエンタルコンサルタンツグローバルに出向し、海外案件の上下水道計画・設計業務に従事する。

海外事業座談会

# インド初の高速鉄道に 新幹線の技術を導入。 グループ一丸となって インフラ輸出を推進。

重点化事業の1つとして「海外新規開拓」を推進するACKグループは、本格的な日本のインフラ輸出となる、インド初の高速鉄道事業を受託。調査・測量から計画・設計と、プロジェクトは着々と進められています。主に車両の製造を中心とした、2007年開業の台湾新幹線とは異なり、軌道、土木、建築、電気、機械、車両など総合的に支援するという日本初の新幹線プロジェクト。国内外から大きな期待が高まっています。今回は、インド新幹線など海外事業に携わる6名による座談会を実施。海外で活動する醍醐味や、開発支援に対する思いを伺いました。

総勢100名もの多彩な技術者による  
国内初となる新幹線のインフラ輸出。

——まずはインド新幹線事業の概要と、ご自身の担当業務についてお聞かせください。

**河合** 広大な国土を持つインドにとって、輸送力の向上は経済発展に欠かせません。また、既存の鉄道では、踏切事故や脱線などが頻繁に発生するという課題もありました。現在、大都市と大都市を結ぶ、定時性と安全性を確保できる陸上輸送手段がありません。そこで、この問題を解決しようとして「インド高速鉄道詳細設計調査」がスタートしました。ムンバイとアーメダバードを結ぶ全長約505km、最高時速320kmの新幹線が計画されていて、2023年開業を目標に、当社を含む国内3社JV<sup>\*1</sup>で調査・設計が進められています。

**今村** インドでは現在、7路線の高速鉄道計画があり、今回が最初のプロジェクトです。2007年に開業した台湾の高速鉄道には、日本で初めて新幹線の車両技術が海外に輸出されました。一方、このインドには、軌道・土木・建築・電気・機械、車両など、すべてをワンパッケージでインフラ輸出するという意味で、まさしく「日本初」の試み。2017年9月には、インドのモディ首相

と日本の安倍首相が起工式を行いました。インドで最初の新幹線を成功させることは、今後の事業拡大への布石となるはず。このプロジェクトに参画しているメンバー全員が、その思いを共有しています。

**角** 全長約505kmのうち、9割以上が高架橋になります。その設計や入札図書の作成業務を担当しています。特殊な箇所を除き、ほぼ全線の高架橋をいくつかの標準的なパターンに分類し、それらを組み合わせで設計します。

**萩** 高架橋、駅、山岳トンネル、車両基地など一般区間の地質調査が主な仕事です。インド側が実施する地質調査の品質管理、進捗モニタリングをはじめ、調査データのレビュー・分析評価を行います。提出物の遅延が多いため、週1回はインド側の調査担当者で打ち合わせ、迅速な情報共有に努めています。

**河合** 道路と交差する部分の橋梁設計と、入札図書の作成を担当しています。総延長500km以上なので、道路交差部は多数存在します。道路管理者と協議しながら、橋梁の形式を決定します。

**今村** ムンバイ駅の近くに計画された延長21kmの海底トンネルを担当しています。現地で調査団の一員として従事し、帰国後は、国内でNATM区間の詳細設計を

担当しています。また、海底トンネル総括という役割も担っています。

国内技術を活用した  
海外事業の積極的展開。

——他の海外事業に携わるお二人にも、ご自身が携わる事業について伺えますか。

**白井** 私が従事しているのはベトナムの下水道計画です。2件に関連しているのですが、現在は調査業務の段階。調査の結果、ベトナム政府が求める事業性に合致すれば、次の詳細調査や円借款事業につながります。すでにハノイやホーチミンなどの大都市では、下水道の円借款事業が進められています。今回の2件はともに地方の中規模都市で、管路や処理場など、下水道に関する施設全般の提案であり、徐々に下水道の利用地域が広がるよう取り組んでいます。

**澤田** アフリカ10カ国・アジア3カ国を対象に、食と栄養に係る情報収集・調査を行っています。これまでもJICAでは保健分野としては保健ワーカーを介した母乳育児の推進などの「栄養改善」の支援を行ってきました。一方、農業・農村開発では、農業生産の向上、生計向上といった経済的側面からの農業支援などを行い、そ

れぞれが個別の取り組みに終始していません。近年「栄養改善」はマルチセクターによる取り組みが必要だという認識が高まる中、日本政府がTICAD VIでIFNA<sup>\*2</sup>の立ち上げを宣言するなど、支援を強化することを表明しました。「栄養改善」を取り入れた農業・農村開発支援は、JICAによる新しい取り組みで、案件形成への調査、評価を進めています。

——普段は国内事業が中心の方も多そうです。そこで、海外事業に関わった率直な感想を伺えますか。

**角** ほとんど国内で活動してきて、長期間海外で働くのは初めての体験。言葉や文化・習慣のちがいに不安はありましたが、グループ会社の方々に助けられ、徐々に慣れてきました。そばでローカルの方が仕事をしているので、英語が上達するよう、できるだけコミュニケーションを増やす努力をしています。

**萩** 私も国内中心でしたが、2年前に約1年間、ベトナムのハノイで道路の施工監理に関わった経験があります。帰国後も「海外で働きたい」という思いが膨らんでいたところ、今回の大規模案件の一員となることができ、喜びを実感しています。

**白井** 6年ほど前から少しずつ海外を意識しはじめ、本格的に関わるようになった



のは3年前。私が入社した頃、国内の下水道はほぼ整備されつつあり、拡張・更新の時代にありました。ところが海外では新規で下水道を立ち上げると面白さがあり、非常にやりがいがあります。

**今村** 数年前にインド バンガロールの地下鉄プロジェクトに携わったことがあり、インドの国民性や技術的課題についてはある程度理解しているつもりでした。しかし私の専門分野は、主に山岳部の道路トンネルですが今回は新幹線の海底トンネル。海外、鉄道に加えて海底おまけに新幹線と初めてのことが多く、自分の経験がどこまで活かせるのか正直不安でした。いざ参画してみると、ACKグループからは15名以上、調査団全体の日本人は100名規模。そこには我々のような土木のほか、あらゆる分野の専門家がいて、国内事業で

は味わえない一致団結した空気があり、得たものはとても大きいと思います。

また、ACKグループの代表として現地でのJV代表者で協議する役割を担当しました。もちろん会議にはインド人も参加しますので、基本的な会話は英語。密かに予習して会議に臨むなど苦労も多かったですが、今では成長を実感しています。

——海外でのご苦労はありますか。

**澤田** 言葉の壁ですが、歴史や文化、地域の慣習など各国で背景が異なるため、それを理解して仕事をするのが大変です。例えば、男性優位の傾向が残る国では、現状把握のために聞き取りを行っても、男性がいるところでは女性が本音を言いつらいことがあります。以前担当した農村開発では、実際に農作業を担うのは女性なので女性への農業研修をしようとしたが、男性側から苦情が出ることもありました。ジェンダーの問題を含め、私たちの常識が、別の国ではそうでないこともありますし、女性コンサルタントとして、信頼されるまでにも時間がかかることもあります。

**今村** インドはカースト制度という身分制

度があり、今でも根強く残っています。そのため、私たちが伝えたいことが伝達されるのに大変時間がかかります。英語が勉強中である私の得意技は、「笑顔で挨拶」と「握手」(笑)。ローカルエンジニアも同じ目的に向かっていきますので、このコミュニケーションで一層の一致団結です。

**白井** もともとベトナム現地自治体が作成したマスタープランがあり、複数の下水処理場、下水システムが計画されていました。ところが状況を調査してみると、1つのシステムで、大きな下水処理場を作る方が経済的にも望ましいという結論に達しました。ところが決定された方針ですから、簡単に変更してくれません。建設費や維持管理の面からメリットを説明し、ようやく納得していただきました。私も英語が得意ではありませんが、決死の思いで伝えると案外通じるものです(笑)。

総合化・複合化する困難なニーズに対し  
専門家が結集しグループで解決に挑む。

——海外事業を展開する上で、ACKグループの強みは何かでしょうか。

**河合** 道路や鉄道等、インフラ整備や都

市・地域開発に関わる計画・設計をはじめ、地質調査や水文調査、測量調査等、ハードからソフトまで幅広い要素技術をカバーしていること。外部企業との連携も大切ですが、それだけではグループ内にノウハウが蓄積されません。グループ内で協力して取り組めるのは他社にない強みだと思います。

**角** FS<sup>\*3</sup>から設計、施工監理、さらに完成後の運営管理までワンストップで対応可能なことです。グループ全体で1つのプロジェクトを完成できると感じています。

**白井** 我々のように国内だけでやってきた会社が、ゼロから海外を目指すのは難しい。しかしグループ内に、オリエンタルコンサルタンツグローバルという海外に強みを持つ会社があり、各社の強みを海外で活かせる土台があります。そのため、オリエンタルコンサルタンツグローバルの海外事業でのノウハウやコネクションを活用できるのは大きなアドバンテージだと思います。

**今村** ACKグループの全社が、すでに差別化できる要素技術を有しています。オリエンタルコンサルタンツグローバルが築いたプラットフォームを使えば、全グループ会社が海外事業にコミットできるポテンシャルがあると思います。

——最後にご自身の目標をお聞かせください。

**澤田** これまで様々な農業・農村地域開発の仕事に携わってきました。今回新たに「栄養」という保健セクターに関わることができました。世界的にも関心が高まる分野でもあり、今回の調査をきっかけに農業による栄養改善の仕事に関わってきたいです。

**白井** 現在の案件はまだ調査段階なので、まずは設計・施工、供用までを見届けたい。ベトナム国内の地方都市、さらには他国の下水道開発に貢献したいと思っています。

**角** 国家規模の一大プロジェクトに向き合えることを誇りに感じています。目の前の仕事に全力で取り組めば、その中で知識や経験が蓄積できます。それを幅広い分野に応用できる技術者を目指します。

**萩** 地質や地盤の技術者には、構造物の安全性を保ち、災害から人々の暮らしを守る責任があります。この10月から国際推進室に異動になり、今後は海外事業を積極的に進める立場。海外の国や地域で、インフラ整備を支援したいです。



**河合** インド初の高速鉄道の建設、日本初の新幹線輸出に携われることは、非常に名誉なこと。タイやベトナムにも同様の新幹線計画があります。新幹線を含め、都市鉄道の整備事業を中心に、ハードの設計だけでなく運用を含めたソフトなど、鉄道プロジェクト全般に関わっていきたいと思います。

**今村** インド新幹線という大規模事業に携わり、技術力・語学力、そして柔軟な考え方を持つことの重要性に、改めて気づくことができました。また、幅広い分野の多くの技術者との人脈もできました。これを活かして今後も自己研鑽に励みます。それに加えて、海外事業に関わったことがないACKグループの各社社員にその魅力を伝え、より多くの仲間が世界中で活躍することに貢献します。

——本日はありがとうございました。

\*1 JV…Joint Ventureの略で、共同企業体のこと。資金力・技術力で単一企業では請け負うことのできない大規模な事業を、複数企業が協力して請け負う組織を指す。  
\*2 IFNA…Initiative for Food Security and Nutrition in Africaの略。食と栄養のアフリカ・アジア・アフリカにおいて、飢餓と栄養不良を克服するための国際的な取り組みを加速するための支援を指す。  
\*3 FS…Feasibility Studyの略。事業の実現性や採算性など、新規事業や新規プロジェクトの事業化の可能性を調査すること。

【海外新規開拓への挑戦】

現地法人や海外拠点の整備、  
海外企業との連携を強化。  
鉄道事業を中心とした  
インフラ整備の旺盛な需要に対応。



Yoshiaki Miyazaki  
宮崎 芳樹  
執行役員 道路交通事業部長 兼  
グローバルソリューションズ事業部 副事業部長  
執行役員 重点化事業責任者(海外新規開拓)

執行役員 重点化事業責任者(海外新規開拓)  
執行役員 道路交通事業部長 兼  
グローバルソリューションズ事業部 副事業部長  
執行役員 重点化事業責任者(海外新規開拓)

ACKグループでは、主にアジアやアフリカなどの開発途上国に対し、社会経済基盤の整備を支援してきました。近年、鉄道の需要が急速に高まっており、ミャンマー、フィリピン、インドネシアなどで大型案件を受注。今回の「インド高速鉄道詳細設計調査」も、その中の1つです。本件に象徵されるように、(株)オリエンタルコンサルタンツグローバルを中心に、グループ会社同士の力の結集、連携強化が求められます。また、グループ全体の海外研修制度や海外企業派遣制度を積極的に活用して充実を図り、グローバル人材の育成を強化しています。

重点化事業分野の1つに「海外新規開拓」を掲げ、海外拠点や現地法人の整備、オーストラリアSMEC社とのパートナーシップ拡大に向けたMOU(合意書)の締結など海外企業との連携を推進。また、タイ国では優秀な技術者の確保や、拡大するインフラ需要に対応するため、現地法人「Oriental Consultants Thailand」を設立しました。設計業務の海外拠点として、同国以外の業務を含め、廉価で高品質な成果品を提供します。今後も人材確保や体制構築に向け、さらに力を注いでまいります。

海外事業の醍醐味とやりがいを仲間たちと共有し、  
途上国の発展や地域住民の生活向上に努めたい。



[アワード・レポート]

# 地域への貢献が評価され受賞

(株)オリエンタルコンサルタンツと(株)オリエンタルコンサルタンツグローバルは、国内外から企画力・技術力などが高く評価され、幅広い分野で賞を授与されました。今後もその名誉に恥じないよう、地域社会の発展と豊かな暮らしに貢献してまいります。

「2017年度グッドデザイン賞」を2件同時に受賞！  
路面電車停留場および換気塔のアウトラインが高い評価を受け、

・Pick UP!

## (株)オリエンタルコンサルタンツ

デザインを担当した「札幌市路面電車停留場」と「高速神奈川7号横浜北線 新横浜換気塔・馬場換気塔・子安台換気塔」が、このたび「2017年度 グッドデザイン賞」を受賞しました。グッドデザイン賞は、1957年に創設された日本唯一の総合的なデザイン評価・推奨の仕組みです。シンボルとなる「Gマーク」は優れたデザインを示す証として広く親しまれています。

路面電車停留場は、平成27年12月の路面電車ループ化(都心線)開業に合わせ、新たに設置したものです。札幌市の新しい顔と駅前通りの賑わいを創出し、市民が生活を充足する住みやすいまちづくりをコンセプトにデザインしました。換気塔は、平成29年3月に開通した首都高速道路の横浜線の3ヶ所に設置。全体的なコンセプトを理念としながらも、それぞれの地域環境に合わせた方針により、「環境創出型換気塔」として提案しました。

今回の受賞を機に、観光や地域の振興を促す良質な公共空間のデザインを提供するとともに、さまざまな事業を積極的に展開していきます。



狸小路停留場(外回り)の外観

photo:momoko japan

### 審査委員による 評価コメント

「都市環境を向上させるため、LRTなどの路面電車の価値が復活して久しい。電停は、日本中にいくつあるのだろうか。シンプルかつ美しい、こんな電停が増えていけば、我が国の都市景観も格段と良くなっていくだろう」

### 【事業関係者】

- ・札幌市
- ・株式会社オリエンタルコンサルタンツ
- ・株式会社ネイ&パートナーズジャパン
- ・NEY&PARTNERS

## 新横浜換気塔(左)と馬場換気塔(右)

### 審査委員による評価コメント

「換気塔のような、必然的に出てきってしまう構造物をきちんとデザインすることは、日本の景観をボトムアップしていく上でとても重要。時に、やりすぎのデザインとなってしまうこともあるが、この作品はデザインの抑制もきちんと効いており、非常に質が高い」

### 【事業関係者】

- ・首都高速道路株式会社
- ・横浜環状線 景観アドバイザー会議
- ・株式会社オリエンタルコンサルタンツ
- ・株式会社日総建
- ・株式会社石本建築事務所



国内・海外プロジェクトにおいて技術力が高く評価され、平成28年度「土木学会賞」を受賞。

## (株)オリエンタルコンサルタンツ

橋梁の大規模修繕や耐震補強において「平成28年度 土木学会田中賞」をダブル受賞。

「首都高速道路1号羽田線 勝島地区橋梁」は、元々連続橋間をゲルバー構造で接続していましたが、ひび割れなど損傷劣化が見られる上、接続部の点検ができないという問題が発生。そこでゲルバー部を連続化する、新たな橋脚で支えるという大規模な修繕を提案しました。また、「片品川橋の耐震補強」では下部工を炭素繊維シート補強、上部工への負担軽減のために一部を免震支承に交換するなど、既存技術を駆使して設計しました。この2件が、公益社団法人土木学会の主催する「平成28年度 土木学会田中賞」の作品部門を受賞しました。



勝島地区橋梁の新設橋脚と連続された桁を臨む。



耐震補強工事の最終段階を迎える、関越自動車道の片品川橋。

## (株)オリエンタルコンサルタンツグローバル

「平成28年度 土木学会賞」において、2つの分野で名誉ある受賞。

「田中賞 業績部門」では、技術顧問の辰巳正明が、耐風安定性に優れた長大吊形式橋梁の実現に向け寄与したこと。また、コンゴ共和国マタディ橋建設において、現地技術者の育成に顕著な貢献を果たしたことが、高く評価されました。「国際活動奨励賞」では、道路技術部長の藤熊昌孝が、インドネシア諸国の交通ネットワークの発展など国際プロジェクトに従事し、長く日本のインフラ輸出に取り組んできたことが認められました。この2名が、「平成28年度 土木学会賞」を受賞しました。



「田中賞 業績部門」で表彰を受けた技術顧問の辰巳正明(中央)。



「国際活動奨励賞」の表彰状を手にする道路技術部長の藤熊昌孝。

## 記録的大雨となった九州北部豪雨による災害に対し、迅速かつ的確な調査・設計で被災地の復興を支援。

2017年7月5日から6日にかけて対馬海峡付近に停滞した梅雨前線に向かって、暖かく非常に湿った空気が流れ込んだ影響などにより、九州北部地方では記録的な大雨となりました。この緊急事態を受け、当社グループでは災害査定資料作成に向けた現地調査を開始。測量、仮橋の設計、本線の新設復旧など被災地の復興に向けさまざまな支援を行っています。

### ■ 宝珠山川 災害査定調査設計 [福岡県東峰村]

#### 甚大な被害にあった朝倉市の隣接地域で河川の災害調査と設計を実施。

九州北部豪雨では線状降水帯が形成されたため、猛烈な雨が長期間にわたって継続。福岡県朝倉市では、時間雨量129.5mm/h、24時間雨量545.5mm/24hを記録するなど、観測史上第1位の豪雨となりました。朝倉市に隣接する東峰村では、河川・道路・橋梁など甚大な被害が発生。災害直後、以前より地域振興業務で関係のあった東峰村より支援要請を受け、ただちに現地調査を行いました。現在も、支川の横井川を含む宝珠山川の災害調査・設計を継続しています。

河川は基本的に原形復旧とし、家屋隣接部は河川の線形変更を行い、施工可能な位置で復旧します。被災地区の竹地区は、農林水産省の「日本の棚田100選」に選ばれるなど、棚田の景観が貴重な観光資源となっています。そのため、護岸も棚田の石積に調和した石積構造を提案し、現在、災害査定に向けて業務を実施中です。



被災直後、災害エキスパートが視察し、現地の状況を調査。

河川に隣接する、倒壊が懸念される住宅。

### ■ 朝倉小石原線 災害査定資料作成支援 [福岡県朝倉市など]

#### 被災による落橋や周辺道路の陥没など合計5橋の災害査定に向けた調査を実施。

筑後川水系佐田川を跨ぐ橋長13.65mの中島橋、同じく疣目川を跨ぐ橋長11.3mの藪橋は、集中豪雨による急激な増水と流木などの大量流下により、橋台背面への流水が生じて、上・下部工が流出しました。中島橋の落橋により佐田川左岸の集落が孤立したため、被災直後に現地調査を実施。その後、約1週間で橋長20mの仮橋設計を行いました。これにより被災後約1ヵ月で仮橋を供用し、孤立集落を解消できました。中島橋・藪橋とも本線復旧(新設)に関する災害査定に向け、災害査定資料作成支援を行っています。

三反田橋、山尾板橋、東山橋は妙見川を渡河する、それぞれ橋長6.0m、4.7m、3.2mの橋梁です。これらは土石流の発生により橋梁や周辺道路が数m程度陥没。橋梁を架け替える方針とし、災害査定資料を順次作成しています。ほぼ同時に5つの橋の復旧に向け、現在も業務に取り組んでいるところです。



被災した藪橋。多数の流木が被害の大きさを物語っている。

護岸が大きくえぐられた中島橋の様子。

# ACKグループ INFORMATION

企業活動や財務状況、最新トピックスなど、株主の皆さまに必要なIR情報を公開しております。

<http://www.ack-g.com>

ACKG 検索



## ボスポラス海峡横断地下鉄工事が「FIDIC<sup>®</sup> Award 2017大賞」を受賞。

インドネシアのジャカルタで開催されたFIDIC 2017年次大会会議において、マルマライプロジェクト—ボスポラス海峡横断地下鉄工事が「FIDIC Award 2017大賞」を受賞しました。FIDIC Awardは、経済発展や地域社会の生活水準向上に寄与したプロジェクトを表彰するもの。多数の応募の中から、このプロジェクトを含む3つが大賞に選ばれました。本プロジェクトはトルコ共和国イスタンブール市のアジア側とヨーロッパ側を結ぶ、総延長76.6kmの鉄道計画で、建国90周年となる2013年に開通。日々約17万人もの乗客を輸送しています。

○FIDIC会長のJae-Wan Lee氏(左)、FIDIC前会長のPablo Bueno氏とともに、授賞式にて記念撮影。



○喜びを分かち合う、代表取締役常務役員技術本部長の宮越一郎(左)と軌道交通技術第二部長の錦織敦(右)。

### 会社概要

商号 株式会社ACKグループ  
所在地 〒151-0071 東京都渋谷区本町三丁目12番1号 住友不動産西新宿ビル6号館  
資本金 727,929千円  
設立 2006年8月28日  
取引銀行 三井住友銀行 三菱東京UFJ銀行 三井住友信託銀行 みずほ銀行 伊予銀行  
従業員数 2,430名 (2017年9月30日現在 連結ベース)  
代表取締役 野崎 秀則  
取締役 森田 信彦 青木 滋 三百田 敏夫 高橋 明人 田代 真巳  
監査役 藤澤 清司(常勤) 圓山 卓 町田 英之

### 主要グループ会社

日本トップブランドの技術を確立し、社会インフラ創造企業へ  
**株式会社オリエンタルコンサルタンツ**  
〒151-0071 東京都渋谷区本町三丁目12番1号 住友不動産西新宿ビル6号館  
世界的な企業ブランドとグローバルな事業展開へ  
**株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル**  
〒163-1409 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号 東京オペラシティタワー  
地盤・地下水・建物のエキスパート、設計・施工のワンストップサービス  
**株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング**  
〒110-0014 東京都台東区北上野二丁目8番7号  
北陸から全国へ展開する「上下水道のプロフェッショナル」  
**株式会社中央設計技術研究所**  
〒920-0031 石川県金沢市広岡三丁目3番77号 JR金沢駅西第一NKビル  
現場で培う経験と先進のICT技術が融合するチャレンジ精神企業  
**株式会社エイテック**  
〒151-0071 東京都渋谷区本町四丁目12番7号 住友不動産西新宿ビル  
お客様のニーズを的確に捉え、IT/BPOサービスで最適な課題解決  
**株式会社リサーチアンドソリューション**  
〒812-0036 福岡県福岡市博多区上呉服町12番33号

### 海外拠点

事務所  
・マニラ(フィリピン)  
・コロンボ(スリランカ)  
・マプト(モザンビーク)  
・カイロ(エジプト)  
・ジャカルタ(インドネシア)  
・バンコク(タイ)  
・ハノイ(ベトナム)  
・ダッカ(バングラデシュ)  
・ホーチミン(ベトナム)  
現地法人  
・インドネシア  
・ミャンマー  
・インド  
・カタール  
・タイ